

令和5年度科学研究費助成事業「学術変革領域研究（A）」に係る中間評価結果

領域番号	20A103	領域略称名	中国文明起源
研究領域名	中国文明起源解明の新・考古学イニシアティブ		
領域代表者名 (所属等)	中村 慎一 (金沢大学・副学長)		

(評価結果)

B (研究領域の設定目的に照らして研究が遅れており、計画の見直しが必要である)

(評価結果の所見)

本研究領域は、中国文明起源解明のための考古学の新規戦略（イニシアティブ）として発案された研究領域であり、中国文明の起源を、新石器時代後期の地方文明の融合と、外来のインパクトという二種類のハイブリディティによって説明しようとする試みである。その背景に外来の威信材、家畜、穀物の導入とそれを支えた人の移動があったはずで、それを考古学と考古分析科学によって究明しようとする試みでもある。コロナ禍の影響を被り中国での調査が出来ない極めて困難な状況で、入手可能な資料を分析したり、中国国外のプロト・シルクロード地域での現地調査を実施したりすることによって一定の成果を収めていることは評価できる。

しかし、それらの成果には中国文明の起源そのものの解明というより、研究過程での副産物と言えるものも含まれている。今後は学術変革領域研究であることを踏まえ、個別研究の蓄積以上の文明論としての総括に向けた取り組みが求められる。また審査段階から研究成果の見通しが不明確で、本研究領域全体における位置付けが懸念されていた計画研究では、これまでの研究成果はその懸念を払拭できていない。

本研究領域の眼目の一つであった出土人骨のパレオゲノミクス研究が不可能になり、威信材の原産地の特定や移動の解明についても、実際に入手・分析可能な威信材がわずかであるという状況の中で、研究の方向を見直し、可能な限り当初の目的を達成することが期待される。

また、研究成果の実績を上げることや、適切な予算の管理・執行などに課題がみられ、早急な本研究領域全体のガバナンスの見直しも必要である。